

各教科及び道徳	学習状況	指導上の課題	改善の計画	評価の方法
国語科	書く事柄を本やインターネットで収集することに意欲的である。少人数グループ、クラス全体と形態をそれぞれ変えながら自分の考えを表現している。物語・説明文では、疑問をみんなで出し合い、話し合いながら読みを深めていくことができる。	①相手の意図を考えて聞くことや、目的を意識して話をすること。 ②文章構成を考えながら、適切な言葉を使ったり段落を正しく設定したりして文章を書くこと。	①日常の言語活動につながるような聞くこと・話すことの場合を意図的に設定し、繰り返し指導したり、日常的に国語辞典を使う機会を設定し、語彙を増やしたりする。 ②自分の考えを伝えるために、文章の構成を考えて書く学習過程を設定する。また、学習活動に対応した評価を設定し、自己評価させたり、友達による他者評価をさせたりする。	文章構成を考えながら、段落を正しく設定して文章を書くことができているか、評価する。
社会科	学習内容に対する疑問点を挙げて、そこから課題を作って意欲的に学ぼうとする。作った課題について、学習者用端末を活用し、調べることができる。	①自分で「問い」をもって追究すること。 ②都道府県や国土、世界地図の見方、位置の理解や写真・図・グラフなど資料を読み取ること。	①自分の考えをノートに書かせ、「問い」の解決に迫れるような学習活動を設定する。 ②資料や地図を読み取ったり、学習者用端末を活用したりする学習を繰り返し、定着を図る。	発表やノートの記述から気付きや分かったことを評価する。小単元の終わりには、設定した課題についての自分が考えたまとめを評価する。
算数科	基礎コースでは、学習内容を確実に習熟できるよう、教科書の例題類題に取り組んでいる。また、状況により前学年の学び直しをしている。発展コースでは、より多くの練習問題を解き習熟を図るとともに、交流の場で互いの考えを共有できるよう取り組んでいる。	①文章題を読み、演算決定し、正しく立式すること。 ②小数の乗法・除法の計算が確実にできること。 ③さまざまな体積の相互関係を理解し、単位変換ができること。	①問題場面に合った図や数直線にかくこと、求める数量を□として式を立てることを、解決の手だての一つとして指導する。 ②前学年以前の学習に戻り、学び直しの時間を確保する。家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ③図や実物大の模型を使って考えさせる。	活用した手だてや答えを導き出すまでの一人一人の考え、他者の解法への気付きを、ノート記述や発表で評価する。評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
理科	観察・実験に対して意欲的である。実験方法や手順についても理解している。問題に対しての仮説を立てることができる。	観察・実験の結果を基に、事象と事象を関連付けて科学的な見方で考えること。	ノートに自分なりの仮説を立てて記録したり、互いに発表し合う機会を設けたりして、多様な考えに触れさせる。実験の結果から考察を書けるようにしていく。	仮説に対する自分の考察、友達の発表やノートの記述、気付きや疑問、まとめ方を評価する。
音楽科	楽しみながら、簡単な二部合唱やリコーダーの演奏に取り組んでいる。弦楽器の構造について理解を深め、鑑賞活動をしている。	①リコーダーの運指を身に付けること。 ②楽曲から感じ取ったことを言葉で表し、友達と共有していくこと。	①一人一人が感じた楽曲の特徴や演奏のよさを伝え合い、共有したことを演奏して試すようにする。 ③発声や楽器の音色に気を付けて、即興的に演奏したり、聴き取ったりする活動を継続的に行う。	活動の様子、発言内容、ワークシート、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	楽しみながら造形活動に取り組んでいる。自分や友達の作品について、よさや面白さを感じ取っている。	①自分の思いをもち、探究しながらつくること。 ②形や色の工夫をし、材料などを生かしてつくること。	①友人の考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。自信がもてるよう、個別の声かけを工夫する。 ②つくりたいものに合わせた道具や材料の使い方を指導する。道具の正しい扱いを復習し、定着させる。	活動の様子・発言・作品・ワークシートなどを通して評価する。
体育科	同年齢の中でも心身の成長の差の大きい学齢のため、ルールや練習方法を工夫したり、教え合って協力する時間を設けたりして運動している。	①グループでの学習や、児童同士で教え合うこと。 ②ルールを守り、協力して取り組むこと。 ③練習の方法などを自分たちで工夫すること。	①学習者用端末などを活用し、少人数での学習、児童同士の教え合いの機会を意図的に作る。 ②誰もが守れる分かりやすいルールを、自分たちで工夫して考える。 ③練習方法の提示をして、その中から個人やチームで選択したり、工夫したりできるようにする。	運動技能の評価だけでなく、学習カードを使った振り返りや、授業中の発言を通して評価する。
家庭科	裁縫や調理実習は、大変意欲的で、興味関心をもって取り組んでいる。	裁縫の取り扱いや調理実習の仕方など、手先を使って作業したり、よさを理解して実践したりすること。	・学習や作業を通して、友達の工夫やよさに気付き、すすんで自分にも取り入れることができるようにする。 ・学習者用端末などを活用し、グループ内で教え合う環境を設定する。	計画や実習、振り返りカードで、グループでの学びを評価する。

<p>外国語</p>	<p>語句や基本的表現を理解し、自分の思いや考えを表現しようとしている。</p>	<p>① 言語を用いて、主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さに気付くこと。 ② 基本的な表現を用いて、その場で質問をしたり答えたりして、伝え合うことができるようにすること。</p>	<p>① 中学年での既習事項を生かすと共に、興味・関心のある身近なものを題材として扱い、コミュニケーションを図る。 ② 児童一人一人の課題を把握することで、適切な声掛けをしていく。</p>	<p>活動の様子、発表、ワークシートなどを通して、評価する。</p>
<p>道徳</p>	<p>登場人物の気持ちを考え、話し合うことを通して、道徳的心情・態度、実践力を養っている。</p>	<p>道徳的価値の理解、人間理解、他者理解について深めていくよう指導すること。また、自分事としてとらえ、生活に生かしていくこと。</p>	<p>・道徳的価値の意義及びその大切さの理解を基に、物事を多面的・多角的に考えさせる。 ・自己の生き方の課題を見付け、それを解決していこうとする思いや願いを深めることができるように、学級全体での話し合い活動を充実させていく。</p>	<p>自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容で評価する。</p>